

きらめく まちビト

× 安藤正男



今年6月から総合政策部特別参事（物流拠点化推進担当）として名寄市役所で働いている安藤さん。物流を通じた名寄の課題などについてインタビューしました。

物流を通じて地域の方々が活躍できる基盤を

職員派遣される前は何をされていたのですか？

平成15年にヤマト運輸に入社し、平成24年に支店長として2年間名寄市で過ごしました。その後、北海道の支店を経験し、直近では、旭川市の道北ベースという職場で旭川以北の大型車両による貨物輸送配車責任者を担当し、今に至ります。名寄市をはじめとして、北海道のすべての地域に所縁を感じており、上川・宗谷管内の市町村にはずっとお世話になっています。

この地域の物流拠点としての課題は？

名寄市を中心に、北海道にはさまざまな魅力や産物が点在しており、すべての地域の方々が活躍されています。しかし、人口減少や高齢化による「慢性的なドライバー不足」が影響し、モノを運ぶ手段が減少してきており、地域の産物や生活必需品の輸送が困難になってくるかもしれません。産物の輸送が困難になると販売しづらくなり、地域の生活が不便に感じると、その地域に住みづらくなり、離農や人口流出の構図と

なってしまうかねません。しかし、名寄市は医療・教育・防衛防災・スポーツ・福祉など、北海道の生活を支えていく上で必要な施設が整っており、稚内・紋別・留萌方面のすべてに道が繋がっています

ので、物流を通じて地元企業や生産者の皆さまが主役となり、地域経済を維持・発展し続けることで、より安心してその地域に住み続けられ、また新しい人々がその地域に住みたくなるようなまちづくりに貢献ができればと思います。今回ヤマト運輸としてではなく、地域の方々とともに考え、行動し、地域の方々が主体となって発展していけるように、市の職員として勤務させていただけます。名寄市が物流の拠点として、この名寄市にモノが集まり、モノの輸送を効率化していくことで、周辺地域の生活の基盤を守っていける仕組みをさまざまな企業さまや生産者さまに参画していただき、一緒に考え、今から構築して行かなければならないと感じています。

名寄の印象は？

1番思うのは人の温かさです。どこへ行っても、家族のように接してもらい、やさしく話してくれます。（妻との）出会いから数えると20年くらい、人生の半分名寄市にお世話になっているので、地元の人たちはみんな家族同然と思っています。あといろいろな施設、食べ物に非常に恵まれているのでとても住みやすいです。

市民の皆さまにひとこと

名寄市に来て日が浅く、新型コロナウイルスの影響でイベントに参加できずにいるので、名寄市のいろんなことを教えて欲しいです。

Profile

安藤 正男 (あんどう まさお)

昭和55年4月生まれ旭川市出身。平成15年にドライバーとしてヤマト運輸株式会社に入社後、名寄センターの支店長などを経て、6月から名寄市に職員派遣。ご家族は名寄出身の奥様と娘さんが2人。現在は単身赴任中。趣味はスポーツ（最近は大マラソン）に温泉とアグレッシブ。

きらめくまちビト…名寄市内で活躍する市民などの紹介を通して、地域の魅力を発信します。